



令和6年度 果樹情報 特別号
 ～ 果樹カメムシ類の防除対策 ～
 (令和6年8月1日)
 福島県農林水産部農業振興課



福島県病害虫防除所より7月30日付けで「令和6年度病害虫注意報」が発表されました。果樹カメムシ類の誘殺数は、平年より多い状況が続いています。
果樹園への飛来が懸念されるため、発生状況に注意を払い、防除対策を徹底しましょう。

1 果樹カメムシ類の発生状況

- (1) 病害虫防除所によるフェロモントラップ調査では、4月5半旬～6月6半旬の果樹カメムシ類の越冬世代の誘殺数が、調査している8地点のすべてで平年より多く、平年の2～6倍となっています(表1)。また、6地点では直近の多発生年(2020年)と比較して誘殺数が多い状況です。
- (2) 7月以降も多数の誘殺が続いており(図1)、7月中下旬の発生予察巡回調査では、すでも、なし、りんごの果実被害が確認されています。
- (3) 果樹カメムシ類の密度が高く、今後は、第1世代成虫の集団飛来による果樹類での被害が懸念されます。

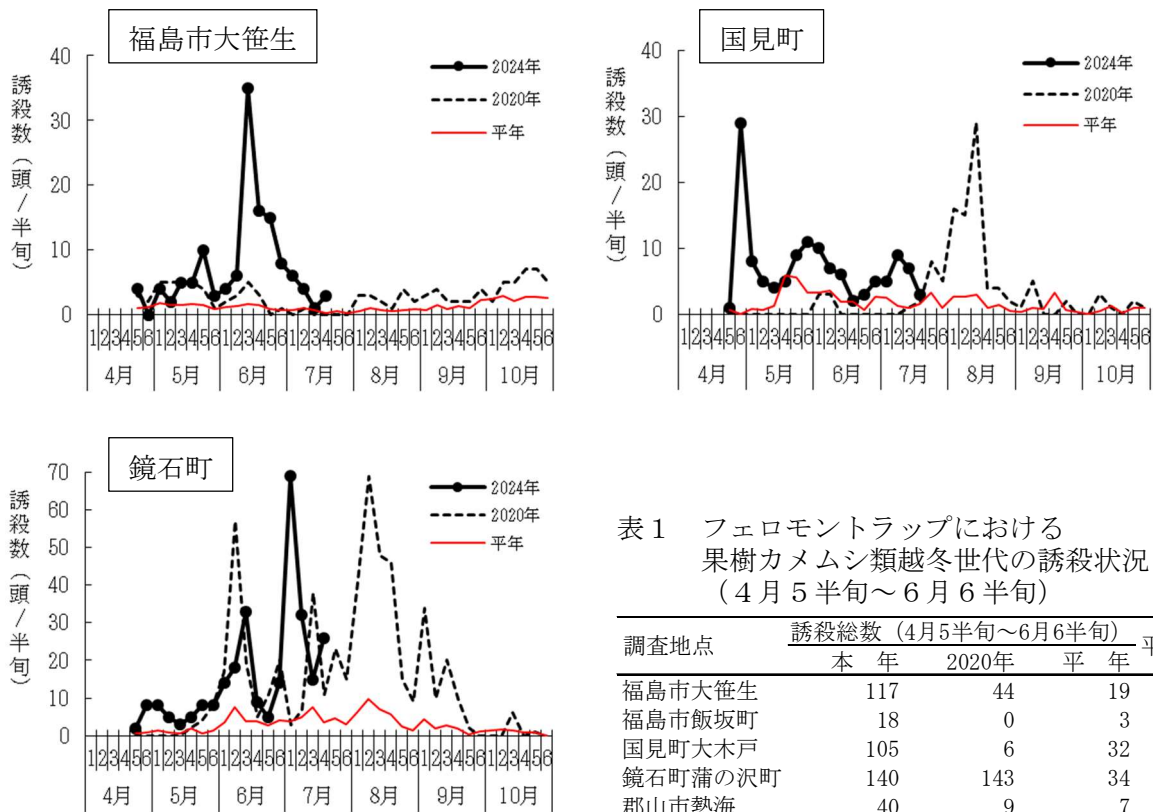


図1 フェロモントラップにおける果樹カメムシ類の誘殺状況 (福島市大笹生、国見町、鏡石町)

**果樹園における発生状況に注意し、
 地域が一体となって防除対策を徹底しましょう！**

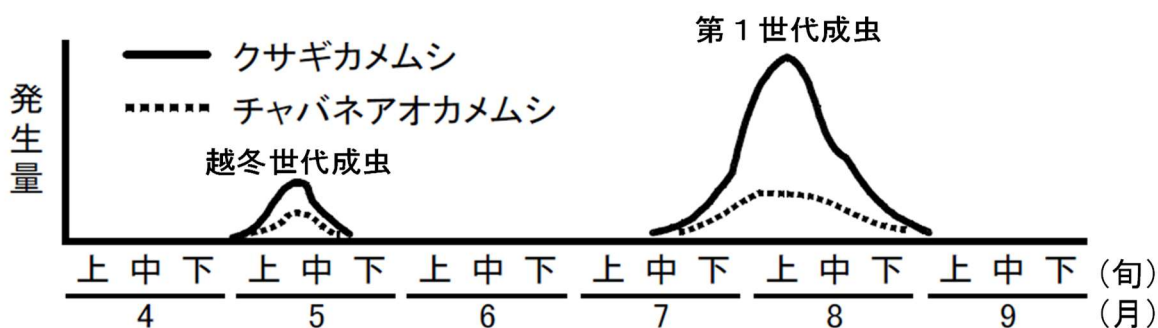
2 防除対策

(1) 発生状況の確認と薬剤防除

- 果樹カメムシ類の第1世代成虫は、通常7月下旬頃から発生し、8月上旬頃にピークとなりますが(図2)、園地への飛来時期については正確な予測が困難です。園内での成虫の飛来状況をよく確認し、多数の飛来を確認した場合は、樹種に応じて表2～4の薬剤を選んで早急に散布しましょう。その際は農薬使用基準を遵守します。また、合成ピレスロイド剤(3A)は天敵への影響が大きく、ハダニ類やカイガラムシ類の増加を招くことがあるので留意しましょう。
- 果樹カメムシ類は、移動性が大きいので、防除効果を高めるために、地域で一斉防除を行うことが望ましいです。また、本年は、ナシヒメシンクイの発生が多いため、定期の予察情報などを参考として、カメムシ類と併せて防除を徹底しましょう。

(2) 物理的防除等の実施

- 多目的防災網は、果樹カメムシ類などの飛来性害虫の被害を抑制できる(平成28年度参考となる成果)ので、速やかに展帳しましょう。



出典：福島県果樹指導要綱

図2 果樹カメムシ類の飛来消長模式図

表2 りんごにおける果樹カメムシ類防除薬剤の農薬使用基準

薬剤系統	薬剤名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数
3 A*	イカズチWDG	1,500	収穫前日まで	2回以内
	スカウトフロアブル	<u>1,500</u>	収穫前日まで	5回以内
	ロディー水和剤	<u>1,000</u>	収穫前日まで	2回以内
4 A	アクタラ顆粒水溶剤	2,000	収穫7日前まで	2回以内
	アルバリン顆粒水溶剤	2,000	収穫前日まで	3回以内
	スタークル顆粒水溶剤	2,000	収穫前日まで	3回以内
	ダントツ水溶剤	<u>2,000</u>	収穫前日まで	3回以内
	バリアード顆粒水和剤	2,000	収穫前日まで	3回以内
	モスピラン顆粒水溶剤	<u>2,000</u>	収穫前日まで	3回以内

注) 登録内容は令和6年7月10日現在。希釈倍数の下線は試験研究成果に基づくもの。薬剤系統3A*は天敵への影響が大きいため、ハダニ類やカイガラムシ類の増加を招く場合があることに留意する。

表3 ももにおける果樹カメムシ類防除薬剤の農薬使用基準

薬剤系統	薬剤名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数
3 A※	アーデント水和剤	1,000	収穫前日まで	3回以内
	アグロスリン水和剤	<u>2,000</u>	収穫前日まで	5回以内
	アディオオン乳剤	2,000	収穫7日前まで	6回以内
	イカズチWDG	1,500	収穫前日まで	5回以内
4 A	アクタラ顆粒水溶剤	2,000	収穫前日まで	3回以内
	アドマイヤー顆粒水和剤	<u>1万</u>	収穫3日前まで	2回以内
	アドマイヤー水和剤	1,000	収穫3日前まで	2回以内
	アルバリン顆粒水溶剤	2,000	収穫前日まで	3回以内
	スタークル顆粒水溶剤	2,000	収穫前日まで	3回以内
	ダントツ水溶剤	<u>2,000</u>	収穫7日前まで	3回以内

注) 登録内容は令和6年7月10日現在。希釈倍数の下線は試験研究成果に基づくもの。
薬剤系統3 A※は天敵への影響が大きいため、ハダニ類やカイガラムシ類の増加を招く場合があることに留意する。

表4 なしにおける果樹カメムシ類防除薬剤の農薬使用基準

薬剤系統	薬剤名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数
3 A※	アディオオン乳剤	2,000	収穫前日まで	2回以内
	イカズチWDG	1,500	収穫前日まで	3回以内
	スカウトフロアブル	1,500	収穫前日まで	5回以内
	ロディー水和剤	1,000	収穫前日まで	2回以内
4 A	アクタラ顆粒水溶剤	2,000	収穫前日まで	3回以内
	アルバリン顆粒水溶剤	2,000	収穫前日まで	3回以内
	スタークル顆粒水溶剤	2,000	収穫前日まで	3回以内
	ダントツ水溶剤	<u>2,000</u>	収穫前日まで	3回以内
	モスピラン顆粒水溶剤	<u>2,000</u>	収穫前日まで	3回以内

注) 登録内容は令和6年7月10日現在。希釈倍数の下線は試験研究成果に基づくもの。
薬剤系統3 A※は天敵への影響が大きいため、ハダニ類やカイガラムシ類の増加を招く場合があることに留意する。

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、参照してください。

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬の散布は使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 農業革新担当 TEL 024(521)7344

(以下の URL より他の農業技術情報等をご覧ください。)

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>